

第57回部落問題研究者全国集会要項

公益社団法人 部落問題研究所

部落問題研究者全国集会は、部落問題にかかわる学際的な研究会として一九六三年に生まれ、以来半世紀余り、部落問題・人権問題に関する学際的な研究発表・討論の場として発展してきました。

現在、日本国憲法改定の動きがかつてなく強まり、排外主義が煽られています。また「部落差別解消推進法」制定という部落問題最終解決への逆流も起こっています。他方では、かつてない広範な市民運動が起こり、「差別」と「分断」を許さない、社会の人間の再生を求める多様な動きもみられます。さらに、「新自由主義」による貧困と格差の拡大を背景に、社会を分裂させようとする動きが世界各地で強まるなか、いかにして社会の「融合」をはかるべきかが内外の切実な課題となっています。

広い視野から人権、地域、これを包含する社会の諸問題について、原理的かつ具体的に研究し、討論することが強く求められています。皆さんのご参加をお待ちしています。

◆日程

二〇一九年一〇月二六日（土）～二七日（日）

第一日 全体会（一〇月二六日 午後一時三〇分～五時）

第二日 分科会（一〇月二七日 午前一〇時～午後四時三〇分）

歴史Ⅰ／歴史Ⅱ／現状分析・理論／教育／思想・文化

◆会場

同志社女子大学・今出川キャンパス（京都市上京区今出川通寺町西入）
*会場へは「東門」からお入りください（正門からは遠回りになります）

第一日 全体会 (二〇月六日午後一時三〇分〜五時)

開会挨拶 尾川 昌法 (部落問題研究所)

報告 21世紀の天皇制度を歴史学的に如何にとらえるのか?

宮地 正人 (東京大学名誉教授)

*宮地正人さん

一九四四年生まれ。東京大学史料編纂所所長、国立歴史民俗博物館館長など歴任。

『天皇制の政治史的研究』(校倉書房)、『国民国家と天皇制』(有志舎)など著書多数。近著(二〇一九年刊)に『天皇制と歴史学—史学史的な分析から』(本の泉社)。

会場 同志社女子大学・今出川キャンパス 純正館

近代以降の「天皇制」、そして日本国憲法のもとでの「天皇制度」における初めての「生前退位」による「代替わり」が行われ、この秋には新天皇の「即位の礼」と「大嘗祭」が行われる。

改めて「天皇」という制度が、現代日本における民主主義の前進との関わりでも注目されるなか、古代以来の歴史的存在である「天皇」について、近世〜近代・現代を専門とする歴史学者の宮地正人氏に、「天皇」をめぐる歴史、そして今日・21世紀の「天皇制度」を如何に捉えるのか、報告していただく。

その問題提起をふまえ、さまざまな専門分野・立場から議論し、問題を深めたい。積極的な参加を期待する。

第二日 分科会 (二〇月二十七日午前一〇時〜午後四時三〇分)

① 歴史Iへ行き倒れからみる近世社会

近世芸備地方の移動と行き倒れ「仮」

藤本清二郎 (和歌山大学名誉教授)

道頓堀周辺の非人行き倒れ

塚田 孝 (大阪市立大学)

コメント 行き倒れへの着目と課題—四国遍路研究の立場から—

町田 哲 (鳴門教育大学)

会場 同志社女子大学・今出川キャンパス 純正館

近年、部落問題研究所では、近世・近代の行き倒れについて検討を深めてきている。歴史I分科会では、その成果をふまえ、近世社会における広領域での移動や困窮により流浪する多様な人々の実態に着目し、行き倒れに対する地域社会や幕藩権力の対応・統制、賤民組織の関わり、あるいは行き倒れを生み出す社会の文化・信仰・貧困・救済といった側面を、構造的に捉えることの意味を考える。とくに都市や街道における具体例をふまえ、身分社会研究・交通史研究の文脈の中で、これを再検討したい。

② 歴史IIへ近代大阪における方面委員制度の成立と社会事業の展開

大阪府方面委員制度の歴史的性格

飯田 直樹 (大阪歴史博物館)

飯田報告へのコメント

高岡 裕之 (関西学院大学)

大阪府方面委員制度は、一九一八年の米騒動後に府の社会事業の補助機関として創設された。報告者の飯田氏は、これまで警察社会事業・部落事務員等に関する研究を積み重ねてきた。本報告では、大阪市とその周辺部における民衆の中での方面委員の活動の具体的分析を通して、方面委員制度の歴史的性格を明らかにする。この報告に、「福祉」を歴史学の問題として捉える研究を推進してきた高岡氏のコメントを得て、討論を展開する。

③ 現状分析・理論〈地域における人権と部落問題を考える〉

地域で暮らし続けるということ

—精神医療福祉臨床から考える—

松本 聡子（ソーシャルワーカー）

同志社大学人文科学研究所所蔵の部落問題資料について

河野 健男（同志社女子大学）

神戸時代の賀川豊彦と部落問題

鳥飼 慶陽（番町出合いの家牧師）

地域における人権課題として、松本聡子氏が、精神障がい者の地域生活をめぐる問題を第54回集会分科会に続いてとりあげ、考える。

部落問題に関しては、関係資料を多数所蔵している同志社大学人文科学研究所について、河野健男氏から、所蔵史料の紹介とその活用について提起を受ける。さらに、神戸の部落の実態について、神戸在住で賀川豊彦に関する著作数冊をもつ鳥飼慶陽氏が報告する。

④ 教育〈道徳教育と人権教育〉

中学校道徳教科書と道徳教育

大八木賢治（子どもと教科書ネット21）

人権教育をめぐる動向と道徳教育

梅田 修（部落問題研究所）

二〇一八年度から小学校に「道徳科」が、二〇一九年度からは中学校にも「道徳科」が設置され、すでに道徳教科書にもとづく実践が展開されている。「道徳科」をめぐっては、これまでも国が道徳内容（徳目）を規定しているのか、はたして教科として成立するのか、教科書教材は道徳教材として適切か、「道徳科」の評価はどこまで可能か（評価はどうするのか）といった諸点が理論的・実践的に議論されてきている。

こうした中で、「徳教性の教育のあるべき姿」を検討するとともに、最近の人権教育の動向にふれながら人権教育と道徳教育の関連についても検討したい。

⑤ 思想・文化〈細井和喜蔵作『奴隷』『工場』(岩波文庫)を読む—現代とのかかわりで労働を考える—〉

『奴隷』『工場』を読む

—いかにして一個の自覚した労働者たりうるか—

秦 重雄（大阪府立桜塚高校）

岩波文庫発刊の経過とその反響

松本 満（細井和喜蔵を顕彰する会）

昨年、約九〇年ぶりに、『女工哀史』の著者・細井和喜蔵の長編小説『奴隷』『工場』が厳密な校訂と詳細な解説をつけて岩波文庫から再刊された。ブラック企業が蔓延する現代日本の状況を告発したかのような作品である。

人間として尊重される労働者の人権意識獲得のための苦闘を作品の中から探ってゆきたい。

参加について

(1) 申し込み方法

①氏名 ②連絡先 ③参加分科会を記入し、葉書・ファックス・メールなどで一〇月二一日までに「全国集會事務局」あて申し込んで下さい（申し込みなしでも参加していただけますが、集會運営の都合上、事前申し込みにご協力願います。）

(2) 参加費

参加費は二、〇〇〇円（学生・院生は一、〇〇〇円）です。集會当時、受付でお支払い下さい。

(3) 報告書 本集會の報告書を『部落問題研究』特別号として刊行します。購読希望の方は、会場で申し込んで下さい。

(4) 会場までの主な交通機関（下図を参照して下さい）。

- ① JR 京都駅から
▽地下鉄烏丸線（国際会館行き）「今出川」下車・3番出口徒歩一〇分
- ② 阪急烏丸駅から
▽地下鉄烏丸線（国際会館行き）「今出川」下車・3番出口徒歩一〇分
▽徒歩一〇分
- ③ 京阪出町柳駅から
▽徒歩一〇分

参加申し込み・お問い合わせは

部落問題研究者全国集會事務局

〒606-8691 京都市左京区高野西開町三四―一二

部落問題研究所

電話 〇七五―七二一―六一〇八

FAX 〇七五―七〇一―二七二三

Eメール burakken@smile.ocn.ne.jp

